

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

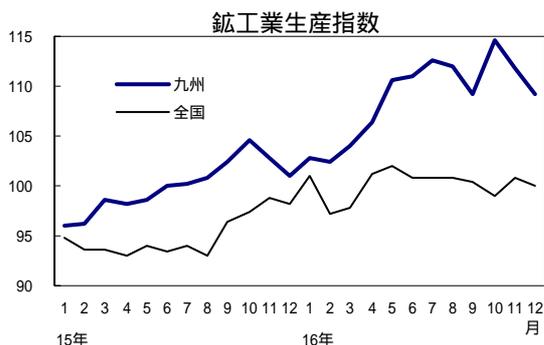
前回調査からの主要変更点

なし。

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、PDPが受注の減少から操業度を引き下げる動きがみられるほか、集積回路が車載向けは好調に推移しているものの、携帯電話向けやデジタル家電向けが需要の一服から生産が伸び悩んでいることなどから減少した。輸送機械は、自動車で鋼材不足による生産休止の影響があったことなどから全体でも減少した。一般機械は、中国向けの発電機関連、半導体製造装置、船舶向けボイラー等の増加から全体でも大幅に増加した。食料品・たばこは、焼酎やビール・発泡酒が増加したことから、全体でも増加した。化学は、中国を中心とするアジア向けの生産が好調であることから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	14.9	0.5	3.4	3.9	19.2
輸送機械	11.7	2.8	6.9	5.8	43.1
一般機械	11.0	18.6	12.8	19.0	6.3
食料品・たばこ	10.8	2.8	5.4	3.6	6.0
化学	8.5	3.7	1.6	2.1	1.3
鉱工業	100.0	1.7	0.6	1.4	0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

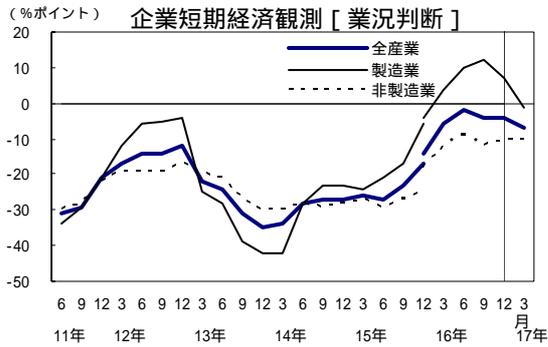
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

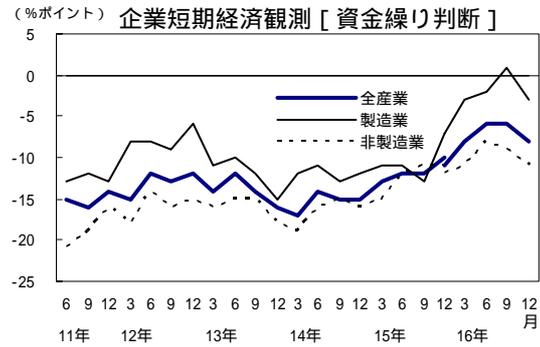
2. 平成16年12月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

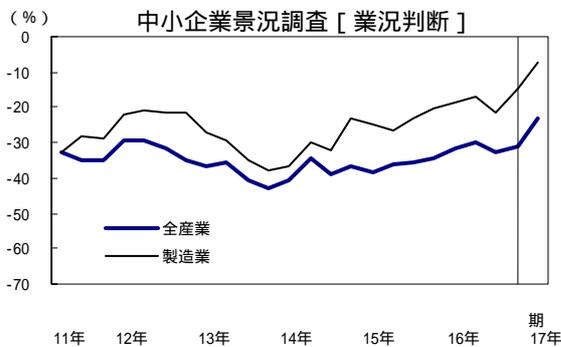
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

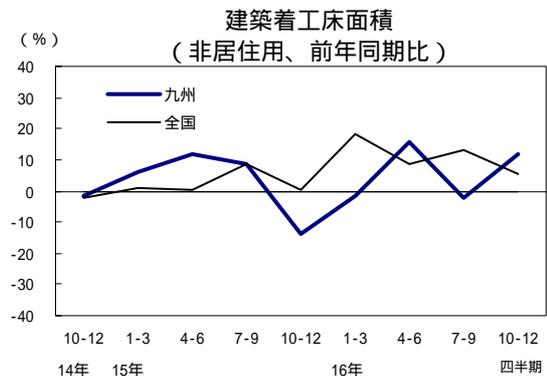
「昨年10月ごろから受注量は減少気味である。好景気を維持しているのは、自動車業界等、特定業界のみである(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	15年度実績	16年度計画
全産業	2.6	10.2 ( 0.4 )
製造業	12.1	43.9 ( 1.0 )
非製造業	1.1	4.5 ( 1.3 )

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

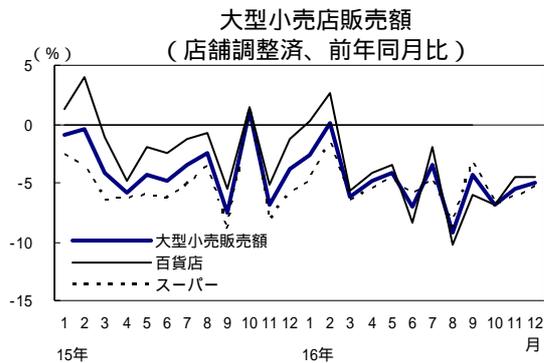
### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、前年のプロ野球優勝セールの影響や気温が高めに推移し秋・冬物衣料の動きが鈍かったことから前年を下回った。11月は、催事効果でバッグ等身の回り品の動きは良かったものの、気温が高かったため冬物衣料が振るわず、前年を下回った。12月は、クリスマス商材でバッグやアクセサリなど身の回り品の動きは良かったものの、暖冬の影響により冬物衣料が不振であったことから前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の1月の売上高は、前年同月比で1.6%減となっている。

スーパーは、気温が高めに推移したことから衣料品を中心に季節商材が振るわず、前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初売りの福袋は、夢のある高額商品の動きは良かったが、家具、電化製品等いつでも買える商材は、値ごろ価格にもかかわらず購買が少なかった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

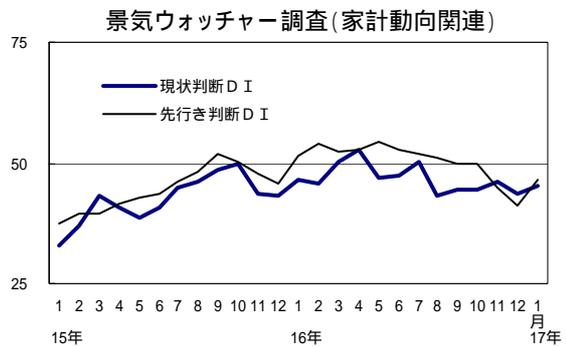
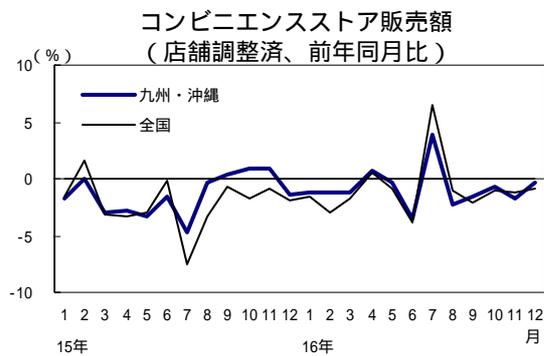


	(前年同期比、%)			
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.1	5.4	5.6	5.7
百貨店	1.3	5.3	5.7	5.2
スーパー	4.4	5.4	5.6	6.1
コンビニ	1.2	1.1	0.0	0.9
景気ウォッチャー	47.6	48.9	45.8	44.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

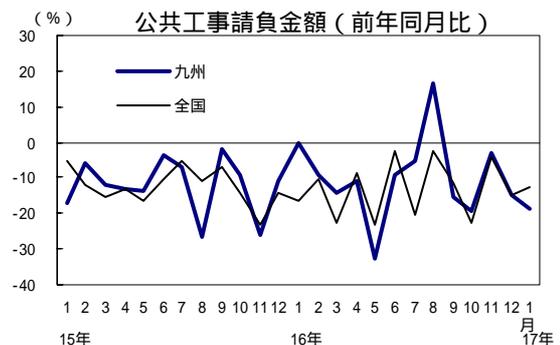
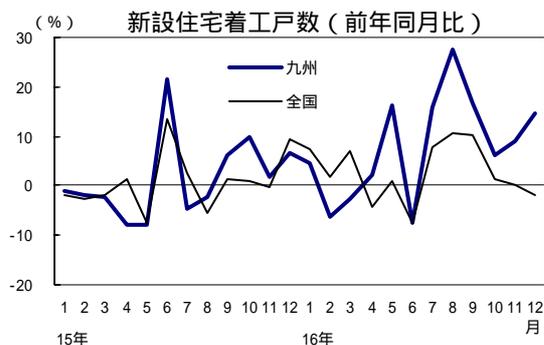
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲を中心に前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

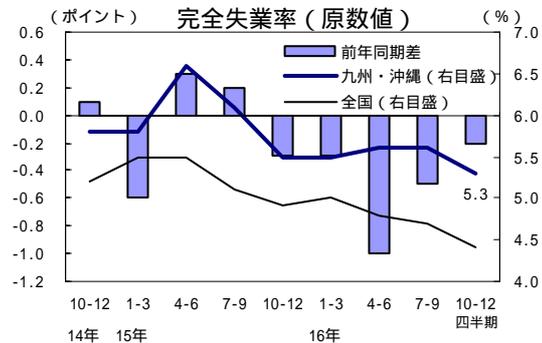
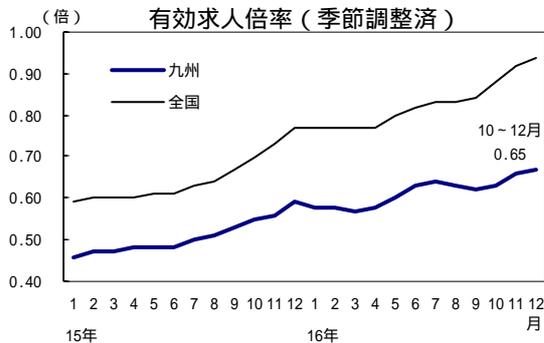


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

「全体としては新規求人数は伸びている。造船関連は高操業が続き求人も伸びているが、卸・小売業、飲食店の求人が減少傾向で元気がない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	300	287	283	299	84
(前年比)	15.0	23.5	22.0	10.7	9.7
負債総額	787	1,071	916	1,049	319
(前年比)	76.6	17.6	49.7	47.1	120.0



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・スマトラ沖地震の影響により、新婚旅行、学生旅行に影響が出ている。韓国等アジアやグアム等、どちらかといえば低単価のものに振り替えられることが多い(旅行代理店)

<先行き>

・福岡市天神地区では2月に地下鉄新路線の開通及び地下街の拡張があり、来街者の増加が見込まれる。消費は若干上向き見込みである(百貨店)

景気ウォッチャー調査(合計)

